



令和2年度

ワールド・ワイド・ラーニング・コンソーシアム構築支援事業

研究報告書

第2年次

令和3年3月

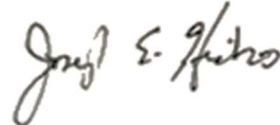
学校法人立命館
立命館宇治高等学校



研究報告書の発行にあたって

立命館宇治高等学校

校長 ヒックス ジョーゼフ



The World-Wide Learning (WWL) Project, which started in 2019 through the auspices of the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), is one of the MEXT's most high-profile and ambitious projects. The ultimate goal of this project is fostering innovative global human resources within the parameters of Society 5.0. Young people need to be made aware of the shift from Society 4.0 to Society 5.0. and the importance of harnessing Artificial Intelligence (AI) for the benefit of all people, not just an elite few. To implement this goal, MEXT selected 10 WWL Core Schools in the 2019 academic year, of which Ritsumeikan Uji High School was one. Twelve more were selected in 2020. These core schools have been charged with creating networks that link not only domestic and foreign secondary schools but also bring global corporations, NPOs, and universities into the network so as to construct new educational systems and platforms for sharing educational resources. It was Ritsumeikan Uji's great honor to be named one of MEXT's first ten WWL Core Schools, and it is no exaggeration to say that the school's record as one of the first generation Super Global High Schools (SGH) had as much to do with our selection as a WWL school. In fact, a number of facets of our WWL initiative indeed were first conceived within our SGH program.

In 2020 students all over the world were unable to attend school due to the corona virus. Under such circumstances, schools and organizations in the AL Network held study sessions and notable special weekly study sessions on the best practices of holding online lessons. Even though fieldwork wasn't possible during the pandemic, it was possible to hold international conferences and overseas training online. Through online implementation, the advantages and disadvantages of teaching online became clear. This was indeed a great achievement this year. With what was learned from these efforts we can expect the combination of on-line and off-line hybrid-type efforts will be very effective.

The SR Summit FOCUS was also held online, but with the participation of 51 schools, which is 1% of high schools nationwide, and 14 schools overseas, students from many schools were able to connect with each other share feedback and improve their projects. The inquiry learning of the students of the IG course, which accounts for 70% of the students in our school, has reached the completion year, and the quality of their projects has clearly improved.

I think that these results could not have been obtained without the cooperation of the affiliated schools and affiliated organizations of the AL network. We would like to take this opportunity to thank you and report on our efforts this year.

目 次

研究報告書の発行にあたって 校長 ヒックス ジョーゼフ	i
-----------------------------------	---

第 1 章 令和 2 年度（2020 年度）実施計画

1. 事業実施計画書	2
2. 事業実施計画変更申請書	8
3. 事業実施計画変更申請書別添 1	9
4. 2020 年度カリキュラム	11
5. 2020 年度研究開発活動日程記録	12

第 2 章 AL ネットワーク

1. AL ネットワークの組織化と参加団体一覧	16
2. ALnetwork との勉強会を実施	19

第 3 章 カリキュラム開発

1. カリキュラム開発概要	22
2. コア探究	別冊
シラバス・授業展開例	
3. 文化探究 (English in Media)	25
4. Global Leadership Studies (GLS)	33
5. Report on Progress of the SDGs Studies Courses	39

第 4 章 国際会議の取り組み

1. 国際会議の取り組み	70
2. 国際会議への参加	71
(1) マレーシア Sri Aman 主催国際会議(SAEYLS)に参加	
(2) 生徒国際イノベーションフォーラム (ISIF) 2020 に参加	
(3) 立命館高等学校主催 RSGF に参加	
(4) Asian Student Exchange Program (ASEP)に参加	
3. 国際会議開催	90
(1) World Youth Meeting(WYM)2020 を開催	
(2) 第 3 回全国高校生 SR サミット FOCUS を開催	
(3) AFTER FOCUS を開催	

第5章 研究開発にかかわる取り組み

1. 海外派遣および受け入れ	130
2. 教科と結びつく研修・取り組み	131
(1) ラオス研修をオンラインで実施	
(2) ケニアの障害者施設のリアルと食	
(3) フィリピン・オンライン・スタディーツアーを開催	
(4) オンライン研修・国際会議のメリットとデメリット	
3. 教科と結びつく企画	156
(1) 立命館アジア太平洋大学 (APU) 国際学生とのオンラインディスカッション	
(2) マイプロジェクトアワード2020in 立宇治	
4. 研究会・WWL 研究報告会開催	162
5. WWL 研究報告会資料	別冊
6. 教材ビデオ作製	163
7. 検証委員会・運営指導委員会	165

第6章 AL ネットワーク連携機関からの報告

1. 愛媛県立三崎高等学校	168
2. 学校法人福岡雙葉学園福岡雙葉高等学校	170
(1) AL ネットワークでの学びが大学選択に与える影響について	
(2) SR サミットから自主的な活動へ	
(3) AL ネットワークに参加して	
3. 宮崎県立宮崎大宮高等学校	172
4. 宮崎県立飯野高等学校	173
5. 学校法人鶏鳴学園清祥開智高等学校	174
6. 学校法人市川学園市川高等学校	175
7. 学校法人名城大学名城大学附属高等学校	176
(1) 第3回全国高校生 SR サミット報告	
(2) 立命館アジア太平洋大学国際学生オンラインディスカッション報告	
(3) 2020年度ラオスオンライン海外研修報告	
8. 学校法人立命館立命館高等学校	179
(1) World Youth Meeting, Asia Student Exchange Program 参加報告	
(2) 第3回 全国高校生 SR サミット～FOCUS～に参加して	
(3) Rits Super Global Forum 2020 Online での協働学習について	
9. 学校法人立命館立命館守山高等学校	183
(1) オンライン・フィリピン・スタディーツアーに参加して	
(2) APU ディスカッション・模擬国連に参加して	
10. 株式会社公文教育研究会	185
11. 株式会社内田洋行	186

12.	アイ・シー・ネット株式会社	188
	(1) ラオスオンライン海外研修と FOCUS	
	(2) 【ONLINE・8月】 Global Leadership Studies in Laos	
	(3) 【ONLINE・1月】 Global Leadership Studies in Laos	
13.	認定 NPO 法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会	193
14.	タクトピア株式会社	194
15.	Tiger Mov 株式会社	196
16.	一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT)	198

第 1 章

令和 2 年度 (2020 年度) 実施計画

令和2年2月28日

事業実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町1-7
管理機関名 学校法人 立命館
代表者名 理事長 森島 朋三 印

1 事業の実施期間

契約日 ～ 令和3年3月31日

2 事業拠点校名

学校名 立命館宇治高等学校
学校長名 チャールズ フォックス

3 構想名

イノベーティブなグローバル人材育成を目指す教育システムの開発

4 構想の概要

AL ネットワークを組織し、Society 5.0 に向けてイノベーティブなグローバル人材育成のための教育システムを開発する。文理融合の学びの中で、グローバルマインドセット、グローバルコンピテンシー、PPDAC の3要素を伸ばす『総合的な探究の時間』とその関連科目の『SDGs』等を開発する。各科目と連動して学びの効果を高める海外研修も開発する。海外研修や国際会議等を、生徒がチャレンジしやすく、効果的な研修となるよう、3要素等の到達度や目的・到達目標により分類する。また、選択科目群や講座群を置き、生徒の関心によって第2外国語や高度な学びができるようなカリキュラムを開発する。課題研究では、多様性を受容し協働できるグローバル社会の実現に向けて、SDGsの目標実現のために生徒全員が取り組む。その成果は国際会議で発表し、多様性の中での論議を通し新しい価値を創造する。

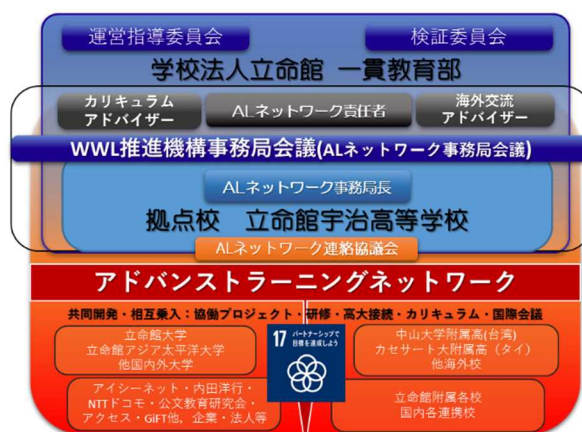
5 令和2年度の構想計画

【1】ALネットワークの形成

(1) ALネットワーク運営組織

運営組織は右図のようにほぼ完成している。連携機関・団体については、次ページ表のように順調に数を増やしており、国内連携校及び団体数は目標に到達している。国際会議等の実施に協力できる海外連携校もそろってきた。

- ① 引き続き運営組織体制を維持・強化する。
- ② 海外連携校を目標の6校以上にする。
- ③ AL ネットワーク推進会議を年間3回開催。連携校間コミュニケーションを密にする。





カリキュラムアドバイザーの役割
法人内の一貫教育部に部付き部長として配属された教員が担当する。附属校管理職としての経験やSSH・SGHの経験から、具体的なカリキュラム作りをカリキュラム推進部会と連携して行う。

海外交流アドバイザーの役割

法人内の一貫教育部に配属された教員が担当する。海外連携校との交流企画や窓口となる。

当初：初回契約時から、元：平成元年度中更新		連携機関名	代表（新旧は新任）
事業協働機関 (国内外の大学、企業、国際機関等) 中期目標（2021まで） 国内大学3校：あと1大学 NPO等法人3団体：達成済 グローバル企業3社：達成済	当初①	立命館大学	仲谷 善雄
	当初②	立命館アジア太平洋大学	出口 治明
	元③	フィリピン Lyete Nomal University	JUDEA, DUARTE
	④	1 大学検討中	
	当初①	株式会社内田洋行	大久保 昇
	当初②	アイ・シー・ネット株式会社	多田 盛弘
	当初③	一般社団法人GIFT	辰野まどか
	当初④	NTTドコモ株式会社 法人ビジネス戦略部スマートライフサービス推進	担当部長 山本 晋史
	当初⑤	株式会社公文教育研究会	池上 秀徳
	当初⑥	認定NPO法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会	新開 純也
	元⑦	タクトピア株式会社	長井 悠
元⑧	Learning in Context (協和物産株式会社)	空田 真之	
元⑨	インドネシア 西スマトラ州 Padang Panjang City	FADLY AMRAN	
⑩	1 社・1 団体検討中		
⑪			
事業連携校 (国内外の高等学校等) 中期目標（2021まで） 海外高校6校：あと1校 国内高校10校：達成済	当初①	台湾 中山大学附属国光高級中学 (国立)	陳 修平 (新)
	当初②	タイ KASETSART UNIVERSITY LABORATORY SCHOOL (国立)	Sasitorn Jangpakorn
	元③	Philippine Science High School System (国立)	Lilia T. Habacon
	④	マレーシア Sekolah Menengah Kebangsaan (Perempuan) Sri Aman (国立)	MISLIAH BT. KULOP
	元⑤	メキシコ メキシコ学院メキシココース (私立)	Ada de las Mercedes Rangel Manchaca
	⑥	インドネシア・香港・シンガポール検討中 ()	
	⑦	()	
	当初①	学校法人市川学園市川高等学校 (私立)	宮崎 章
	当初②	学校法人聖マリア学園聖光学院高等学校 (私立)	工藤 誠一
	当初③	学校法人鶴鳴学園青翔閣高等学校 (私立)	横井 司朗
	当初④	学校法人福岡雙葉学園福岡雙葉高等学校 (私立)	西山 和幸
	当初⑤	学校法人東明館学園東明館高等学校 (私立)	花上徳明 (新)
	当初⑥	学校法人立命館立命館高等学校 (私立)	堀江 未来
	当初⑦	学校法人立命館立命館慶祥高等学校 (私立)	久野 信之
	当初⑧	学校法人立命館立命館山高等学校 (私立)	寺田 佳司
	元⑨	愛媛県立三崎高等学校 (公立)	若江 亨
元⑩	宮崎県立宮崎大宮高等学校 (公立)	飯干 賢	
元⑪	宮崎県立飯野高等学校 (公立)	押方 修	
元⑫	長崎県立長崎東高等学校 (公立)	野田 定延	
元⑬	学校法人名城大学名城大学附属高等学校 (私立)	伊藤 善人	
元⑭	国立石工業高等専門学校 (国立)	笠井 秀明	
⑮	()		
⑯	()		

(2) 関連機関の情報共有体制

関連機関とは、メーリングリスト（事務局用・ネットワーク全体用）、フェイスブック等のSNSの活用が行われており、現段階で十分に機能している。専用 Web ページも3月中に公開予定。さらにスムーズなコミュニケーションが出来るよう改善する。

- ① さらに活発に活用されるよう、発信頻度を高めると同時に共有情報の精査も行う。
- ② 外部への発信の強化のため、公開ウェブページ等の整備をさらに行う。

リソースの共有（研修等）・共同研究・共同開発については、【2】(2)に示す。

【2】研究開発・実践

(1) カリキュラム関連

研究開発学校として「コア探究」（総合的な探究の時間）の実施（2018年度）から3年目を向かえ、本年度が全学年での実施となる完成年度である。これにより、高校生全生徒が課題研究に取り組むことになり、研究発表や研究論文の提出を行うことになる。また、探究の高度化につながるリフレクションや、探究に取り組んでの自己の成長を確認できるリフレクションについての教材開発を行う。また、マイプロジェクト in 宇治の継続的な開催を含め、セカンドキャリアを意識したカリキュラムの設計を行う。

- ① コア探究Ⅰ・Ⅱ（キャリアサービスラーニング(CSL)を含む)の実践と改善を行う。
- ② コア探究Ⅲ, SDGs 2等のカリキュラム開発を行い、授業実践を行う。マイプロジェクト in 宇治の継続的な開催などキャリア形成と密接に結びついた探究プログラムの開発を行い、セカンドキャリアを意識したカリキュラム設計とする。
- ③ 高大接続の開発と効果の検証を行う。また、大学の正課研修、正課に準ずる研修に参加できる仕組みを作る。

- ④ 2020年度のカリキュラム計画，土曜講座の計画を推進する。
- ⑤ IG コース完成に伴い，学びの集大成発表の場の創設を検討し，発表会を実施する。

コア探究と連携して実施される学校設定科目「SDGs I・II」（文理融合のイマージョン科目）の開発については，授業担当ネイティブ教員とカリキュラムアドバイザー，カリキュラム推進部会担当，事務局長で構成する定期的な打合せを中心に，開発を進めていく。

(2) 海外研修・国際会議関連

国際会議については，2019年度に予定通り2会議を開催。模擬国連も開催した。SRサミットではAPU国際学生の参加のもと開催したが，2020年度には日本語を学ぶ海外校の生徒，留学生の参加を追求する。国際会議が学びの場として重要な役割を持つことは明確であり，そこでの発表や議論が生徒のモチベーションとなる。そのため，予定通りGlobal Youth Fairを開催する。海外研修については，連携校の参加が実現し，連携校からも積極的な提案がなされるようになった。それらの提案を活かしながら，さらに協働プロジェクト実施まで行う。また，連携校の取り組みへの乗り入れも提案されており，2019年度には3ヶ所が実現している。今後さらに拡大し，協働プロジェクトへ発展させていきたい。

カリキュラムアドバイザーは，カリキュラム推進部会から要望のある研修構築について，ネットワーク推進部会に提案，アドバイスを与え，ネットワーク推進部会長と事務局長の三者が連携しながら海外研修を構築し，海外連携校やNPOとの交渉を分担する。

- ① World Youth Meeting(WYM)は1999年より文部科学省後援で続く会議だが，2018年から学校法人立命館が共催となった。姉妹会議である台湾開催のAsian Students Exchange Program(ASEP)も含め，2020年より立命館附属校以外のALネットワーク連携校も参加しバージョンアップを図る。
- ② 本校で進めてきたプロジェクト(ラオス等)や研修へALネットワーク連携校からの参加実績をさらに積み重ね，協働プロジェクトへ発展させる。
- ③ 新規国際会議(Global Youth Fair)開催。生徒実行委員会の生徒を中心に運営する。
- ④ 2019年度，連携校参加のもと模擬国連を開催した。この経験を活かし，次年度以降徐々に参加校をALネットワーク連携校全体に広げる。
- ⑤ 日本の学校，APU国際学生，企業関係者で開催したSRサミットに，日本語を学ぶ海外校生徒または留学生を入れて，国際的な取り組みにする。
- ⑥ 連携校の取り組みへの参加など，さらにリソースの共有を進める。
- ⑦ 国際会議や海外研修の分類を行う。

(3) ISN2.0関連

ISN2.0(「OECD日本イノベーション教育ネットワーク」の略称)は，OECD(経済協力開発機構)と文部科学省の協力のもと，21世紀型に求められる資質・能力を涵養するための新しい学びのモデルの開発などを行っている。このネットワークの中心校として，生徒のリーダー層育成のために，国際フォーラム等の実施，プロジェクトの創出に積極的にかかわっていく。

- ① 2020年夏の生徒国際イノベーションフォーラムに向けて海外校との地域課題解決型の協働PBLを行う。
- ② ISN2.0研究会に参加し，他の参加校とともに文科省・OECDとのプロジェクトを進め，その中で本校が全体をリードできるよう動く。
- ③ 今夏ISN2.0国際イノベーションフォーラムが京都で開催される。前年度も継続的に研究会に参加し生徒・教員とものの実行委員になったが，本年度も前年度に引き続き実行委員会等に加わるなど，積極的に関与する。

(4) 留学関連

アジア架け橋プロジェクト5名の受け入れに加え、独自の留学受け入れシステムを開発し、そのシステムから初めて1名の留学生を受け入れた。これらをさらに継続させると共に、中短期の留学生を増やすために、海外連携校とその仕組みを構築する。

- ① 中長期留学生を増やし、APUなどの日本のグローバル大学に進学させる仕組みを先例として作るとともに、アジア架け橋プロジェクトの留学生も今後も含め継続して受け入れる。
- ② 海外連携校との交換プログラムを創生する。

(5) 研究会・運営指導委員会関連

2019年度は予定通り、研究会及び運営指導委員会を開催した。公開授業や研究発表により、教員・生徒ともに発表の場を持つことは、内外に実践を普及するだけでなく、自らの振り返り・改善に活かすことができる。そのため、2020年度も同様に開催する。

- ① コア探究公開授業研究会、WWL成果報告会を継続して開催し、成果普及に努める。
- ② 運営指導委員会・検証委員会を年間2回または3回開催する。

【3】財政等支援

学校法人立命館は「立命館 Global Initiative」を掲げ、SGU2大学をはじめ附属各校を含めた国際戦略を持ち、多様性から創造性とイノベーションを創出する総合学園をめざしている。これらの取り組みを通じて、立命館は、アジアから世界へ、世界からアジアへ、人と人、知と知をつなぐ「ゲートウェイ」としての役割を發揮するとともに、世界とアジアの中で真の信頼と友情を育む人づくりに貢献することを宣言しており、立命館のグローバル展開に向けた全ての取り組みを礎に、国際社会と地域社会の発展を担う真のリーダーを育成する先導的役割を果たしていく。そのため、立命館宇治高等学校のWWL拠点校としての役割を、全面的にバックアップする。

具体的には、WWL拠点校運営にかかわり、昨年度同様に以下のような支援を行う。

- a. 立命館宇治高等学校に臨時定員増2名継続して配置する。
 - b. 管理機関である一貫教育部におけるカリキュラムアドバイザー、海外交流アドバイザーを教職員で配置する。
 - c. 立命館宇治高等学校に、契約事務職員を配置し、教員の業務を軽減する。
 - d. 高大接続特別予算を重点配分し、APUとの連携に補助をする。
 - e. 国際会議開催のため、大学設備使用等の便宜を図る。
- また、立命館宇治教育後援会等からの海外研修補助を受ける予定である。

<添付資料>

- ・2019年度入学生、2020年度入学生教育課程表

6 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
【1】(1) ネットワーク充実・国内外先進校視察	拠点・連携各校	
(2) 関連機関の情報共有体制	拠点・連携各校	
【2】(1)①高1・2 コア探究Ⅰ・CSLの授業実践と改善	拠点校	
②高3 コア探究Ⅱ・SDGs等の授業構築	拠点校	
③高3 その他の科目開発	拠点校	
④高大接続の構築	連携大学	
⑤令和2年度カリキュラム・土曜講座計画	拠点校	
(2)① WYM・ASEP	連携大・台湾等	
② 海外研修充実と協働プロジェクト創出		
a. ラオス	連携機関	
b. フィリピン	連携機関	
c. マレーシア	連携各校	
d. その他	連携校	
③ Global Youth Fair 開催	拠点校・連携大	
④ 模擬国連開催	拠点校・連携大	
⑤ SR サミット FOCUS の充実と実施	拠点校・連携大	
⑥ 連携校の取り組みサポート	連携校	
⑦ 国際会議や海外研修の分類	拠点校	
(3)① 地域課題解決型プロジェクト	拠点校	
② プロジェクト	拠点校	
③ ISN2.0 国際フォーラム	拠点校	
(4) 留学生の増加	拠点・連携各校	
(5)① 研究会・研修会・運営指導委員会	拠点・連携各校	
② カリキュラム部会検証・検証委員会	拠点校	

7 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（契約日 ～ 令和3年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【1】(1)AL ネットワーク構築		連携校視察	海外校視察	ALN会議			海外校視察	ALN会議	国内校視察		ALN会議	連携校視察
【1】(2)関連機関情報共有	随時共有											→
【2】(1)①②コア探究Ⅰ・Ⅱ, CSL他 授業改善	実践		指導助言		指導助言	指導助言		公開授業	指導助言			→
【2】(1)③コア探究Ⅲ・SDGs2他 授業実践	構築と実践		指導助言		指導助言	指導助言		公開授業	指導助言	生徒発表会	指導助言	
【2】(1)①②③にかかわるプロジェクト等			学会参加		地域活性化取組	宇治魅力化P		学会参加	マイプロジェクト本気のPBL		指導助言	マイプロジェクト大会参加報告書完成
【2】(1)④⑤令和2年度カリキュラム・高大連携構築	実践と修正 随時大学と協議		高大連携会議					高大連携会議				→

【2】(2) ① WYM・ASEP ④ 模擬国連	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		WYM準備	MUN準備		WYM	ASEP準備			ASEP			
【2】(2) ② 海外研修充実と協働プロジェクト創出	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		ラオス準備			ラオス派遣	ラオス準備			ラオス派遣	ラオスまとめ		
		フィリピン準備							フィリピン派遣	プロジェクト創出		
準備	準備	マレーシア国際会議	その他開発									
【2】(2) ③ Global Youth Fair 開催	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
案内リリース	実行委員会準備							本番				
【2】(2) ④ SRサミットの充実と実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	準備				SRサミット本番					After FOCUS本番		
		プロジェクト実行										
【2】(2) ⑤ 国際会議や海外研修の分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		取組毎に随時検討										
【2】(2) ⑥ 連携校の取り組みのサポート	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		連携校の取り組みに応じて随時										
【2】(3) ISN2.0	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		国際フォーラム海外校とのプロジェクト創出	実行委員会参加		国際フォーラム参加				海外校とのプロジェクト創出			
【2】(4) 留学生増加	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	受入計画会議		アジア架け橋受入			カセサート受入						
			メキシコ受入			マクリーズ受入						
【2】(5) ① 研究会・研修会	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			協議会参加	研修会				公開授業・指導委	研修会・フォーラム参加	研究会・指導委	研修会	
【2】(5) ② 検証・検証委員会	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			検証アドバイザー	検証アドバイザー		検証アドバイザー	検証アドバイザー	検証委員会		検証委員会		

8 再委託先の有無
無し

9 所要経費
別添のとおり

【担当者】

担当課	一貫教育部一貫教育課	TEL	075-813-8218
氏名		FAX	075-813-8219
職名	部長	E-mail	

第1章 2. 事業実施計画変更申請書
(別紙様式2)

令和2年11月 日

事業実施計画変更申請書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町1-7
管理機関名 学校法人 立命館
代表者名 理事長 森島 朋三 印

年度WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業に係る事業実施計画を、下記により変更したいので、申請いたします。

記

1 変更事項

別添1, 2のとおり。

2 変更の理由

コロナウィルス感染症拡大に伴う、感染予防および海外渡航制限等のため、立命館宇治高等学校が実施、開催予定であった国内外視察、研究会、国際会議、海外研修、運営指導委員会、同校が参加予定であった国際会議や文部科学省主催の連絡協議会、全国高校生フォーラム等がオンライン開催または中止となったため。具体的には別添1のとおり。

3 変更が事業に及ぼす影響及び効果

オンライン実施することで、生徒の機会が完全に奪われずに済む。また、対面実施よりも拠点校、連携校からの参加者を増やすことができ、効果の範囲を拡大させることができる。

現段階で実施できていない一部の先進校視察や海外連携校視察については、今後の動向を見て実施を判断する。具体的には別添1のとおり。

【担当者】

担当課	学校法人立命館 一貫教育部	TEL	075-813-8218
氏名		FAX	075-813-8219
職名	部長	E-mail	

事業実施計画変更申請書別添 1

下記のとおり、実施、開催、参加予定であった国内外視察、研究会、国際会議、海外研修、運営指導委員会、文部科学省主催の連絡協議会、全国高校生フォーラム等をオンライン実施、開催、参加に変更する。生徒研修・研究会（教員研修を含む）関連で特に説明を要する変更は以下のとおり。

【2】(2)② IM コースの GLS、IG コースの SDGs などの授業や連携校の取り組みと連動して行われてきた海外研修は、コロナウィルス禍において、実際に現地を訪問しての研修ができなくなった。これらの授業で生み出したプロジェクトを現地へ持ち込み、実践活動を行う研修開発であるため、研修が中止になると、授業の立て付けが根本から揺らぐことになる。それを避け、生徒の研修機会を奪わないために、オンラインでも現地の方とのインタラクションがあり、当初目的を達成できるオンライン海外研修を構築する。具体的には、予定されていたラオス研修 2 回とフィリピン研修 2 回のうち 1 回をオンライン実施に変更する。

コロナ禍において対面での事業の推進が、特に海外において今後も困難な現状のなかで、本変更により、所期の目的が達することができるとともに、オンライン実施により、各事業の参加範囲を拡大することが可能となるため、効果の範囲を拡大することができ、また、より広く成果の普及が期待できる。

<初期の目標について>

- ・多様な現場を訪問し、実社会に結びついた解決策について多角的に理解し、プロジェクトの運営に活かす力を養う。
- ・異文化交流活動として現地高校生等との交流により、異文化を理解・尊重し、異なる文化や価値観に柔軟に適應する姿勢を養う。
- ・協働による教育支援プロジェクトを実践する中で、プロジェクト運営の難しさを学ぶ。また、他校の生徒とのチームで協働することで実践力を高める。
- ・途上国の被支援者が自立可能な支援を継続的にできる仕組みを考えるなかで、社会貢献の形を体現できる力を養う。
- ・連携校においても授業と連動させながら新プロジェクトを生み出す仕組みを構築する。

このコロナ禍でより困窮の度合いが高まっている人たちに、支援を途切れさせてはいけないと生徒たちは感じている。今次コロナ禍で直接訪問できない中、オンラインへの計画変更により、これらの当初目的を生徒に享受させることが期待できる。

<変更によって期待できる追加的効果>

オンラインのメリットとして、参加定員を増やすことができ、連携校を含め、より多くの生徒に経験を提供できる。一方で、オンラインの場合は、五感すべてを使って現地を感じることができないため、可能な限りそれらを補填できるようなオンライン研修を開発する。オンラインの特性を活かし、生徒の参加機会を増やすことで経験値をあげることが可能である。また、新たに、国内課題を海外生徒と共有して協働で一緒に解決するハイブリッド型の開発も追加して行う。

<生徒の機会を増やすための追加策>

生徒の機会を増やすことやハイブリッド型の研修の目的・概要は以下の通り。

- ・オマーン研修（オンライン）

今までラオス、フィリピン、タイ、香港などアジア中心であった研修を、地域を中東地区に広げ、よりグローバルな視点を身につける。オマーンのような宗教が国の制度や規範にまで浸透している国家においては、ジェンダー平等や不平等を無くすることは、それまでの教義や文化、伝統、習慣と相反する概念であり、向き合うには厳しい環境にある。変化してきている時代に合わせていかに伝統や文化を踏襲した上で適應していくのか、これは日本でも年功序列やガラスの天井、食文化と生物多様性の保護、エネルギー利用と環境保護といった同様の課題を抱えている。平和

で持続可能な社会の達成には、こうした「緊張やジレンマの調整」や、社会の変革に向けた国民の意識や行動の変容が求められる中、本企画において、高校生が現地の若者と共にジレンマと向き合い、相互の大切にしている価値を尊重しながら未来を描いていくことを目的とする。

・ハイブリッド型研修

国内における限界集落等の問題を、現地を訪れて調査し、課外を発見し解決する。その過程で、海外の生徒と調査したことを共有し、協働で解決策を導き出す。調査を対面で行い、情報共有やディスカッションをオンラインで行う。英語で説明したりディスカッションしたりする経験を通し、異文化の生徒にも伝わる説明を意識し、異文化を背景に持つ生徒からの違った視点を取り入れながらの論議などを経験する。

【2】全体にかかわり、講師に来ていただいでご講演いただく研修を、コロナ禍における感染対策としてオンラインで講演いただき、講演の種類（講師数）を増やすようにした。

【2】(5)①② 研究会等については、11月実施までオンラインに変更して実施する。しかし、研修の生徒引率も含めて、連携校の教員同士が顔を突き合わせて議論する機会がなかった。オフラインで顔をあわせて議論することも重要なため、12月以降については、オフラインも追及する。特に1月の研究報告会では、各校負担で連携校から参加いただく予定だが、それに加えて、次代を担う若手の先生にも参加いただき、同日に開催予定の教員研修会を通して連携関係を強化したい。そのため、若手教員の旅費について計上することとした。

事業実施計画書内7における業務項目番号	変更前	変更後
【1】(1)	ネットワーク充実・国内外先進校視察実施	12月までの実施を中止。状況を見て国内は1月以降に実施。
【2】(1)②	SDGs 授業構築 講演会	予算を独自財源に変更
【2】(1)①②③	公開授業実施	オンライン講演会実施
【2】(1)①②③	宇治魅力化プロジェクト・本気のPBL	中止もしくはオンライン
【2】(2)①	WYM 開催・ASEP 参加	オンライン実施・参加
【2】(2)②	海外研修充実と協働プロジェクト創出	実施回数を増やし、オンライン実施
【2】(2)③	Global Youth Fair (GYF) 開催	SR サミットと共同開催でオンライン実施
【2】(2)④	模擬国連開催	一部オンライン開催
【2】(2)⑤	SR サミット FOCUS の充実と実施	開催を8月から11月に変更。GYF と開催でオンライン開催
【2】(3)①②	地域課題解決型プロジェクト、その他のプロジェクト実施	オンライン開催
【2】(3)③	ISN2.0 国際フォーラム参加	オンライン参加
【2】(4)	留学生受け入れ	アジア架け橋は11月より受け入れ。他は中止
【2】(5)①②	研究会・研修会・運営指導委員会、カリキュラム部会検証・検証委員会の開催	11月までオンライン開催

上記の変更により、別添2のとおり所要経費の旅費、借損料、印刷製本費、消耗品費の一部を取り消し、雑役務費等に変更する。

以上

第1章 4. 2020年度カリキュラム
別紙2

立命館宇治高等学校
教育課程表 《2020年度入学生適用》 《2020年度以降入学生適用》

教科	科目	Subject	IBコース			IMコース			IGコース		
			1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
国語	国語総合	Integrated Japanese Language	4			4			4		
	日本語Ⅰ	Japanese I					4			2	
	日本語Ⅱ	Japanese II						4			☆4
	文学総合	Integrated Literature								▲2	
	文化と表現	Culture and Expression									▽3
地理歴史	世界史A	World History A	2							2	
	世界史B	World History B					4				
	日本史A	Japanese History A			2		2				
	地理B	Geography A								●3	
	歴史探究	Inquiry History									△5
公民	現代社会	Contemporary Society	2			2			2		
	倫理	Ethics								●3	
	政治・経済	Politics and Economy								●3	
数学	数学Ⅰ	Mathematics I				3			3		
	数学Ⅱ	Mathematics II								4	
	数学Ⅲ	Mathematics III									★6
	数学A	Mathematics A				2			2		
	数学B	Mathematics B								●3	
	数学総合	Integrated Mathematics						4			☆2
	統計学	Statistics									▽3
理科	科学と人間生活	Science and Our Daily Life	2			2			2		
	物理基礎	Basic Physics								○2	
	物理	Physics									△5 ▼4
	化学基礎	Basic Chemistry						2			▲2
	化学	Chemistry									△5 ▼4
	生物基礎	Basic Biology	2							○2	
	生物	Biology									▼4
保健体育	体育	Physical Education	2	2	3	2	2	3	2	2	3
	保健	Health			2	1	1		1	1	
芸術	音楽Ⅰ	Music I							◆2		
	音楽Ⅱ	Music II								○2	
	美術Ⅰ	Art and Design I	2			2			◆2		
	美術Ⅱ	Art and Design II					2			○2	
	書道Ⅰ	Calligraphy I							◆2		
	書道Ⅱ	Calligraphy II								○2	
	芸術探究	Inquiry Arts									▽3
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	English Communication I				3			3		
	コミュニケーション英語Ⅱ	English Communication II					3			4	
	コミュニケーション英語Ⅲ	English Communication III									4
	英語表現Ⅰ	English Expression I				2					
	英語表現Ⅱ	English Expression II					2				
	英語特修	Advanced English				2					
	Productive English Skills I	Productive English Skills I							2		
	Productive English Skills II	Productive English Skills II								2	
	Productive English Skills III	Productive English Skills III									2
	English SL	English SL	△3	○3	○2						
	English HL	English HL	△3	○5	○3						
	Proficiency Development English	Proficiency Development English						○3		▲2	
	中国語Ⅰ	Chinese I						○3		○2	
	中国語Ⅱ	Chinese II									▽3
	ドイツ語Ⅰ	German I						○3		○2	
ドイツ語Ⅱ	German II							○3		▽3	
フランス語Ⅰ	French I						○3		○2		
フランス語Ⅱ	French II									▽3	
家庭	家庭基礎	Basic Home Economics	2			2			2		
情報	社会と情報	Information Study for Participating Community			2	2			2		
	プログラミング	Programming									▽3
国際	Citizenship	Citizenship						4			
	Mathematics	Mathematics						2			
	Science for SDGs	Science for SDGs						2			
	International Literature	International Literature						3			
	Academic Communication	Academic Communication						4			
	Theory of Knowledge	Theory of Knowledge					2	2			
	学際	SDGs 1	Sustainable Development Goals 1							●3	
	SDGs 2	Sustainable Development Goals 2								▼4	
	文科探究	Inquiry Humanities								▼4	
	簿記	Bookkeeping								▽3	
IBDP	Language II SL	Language II SL		○3	○2						
	Language II HL	Language II HL		○5	○3						
	Japanese SL	Japanese SL		○3	○2						
	Japanese HL	Japanese HL		○5	○3						
	Business and Management SL	Business and Management SL		●3	●2						
	Business and Management HL	Business and Management HL		●5	●3						
	Economics SL	Economics SL		●3	●2						
	Economics HL	Economics HL		●5	●3						
	Global Politics SL	Global Politics SL		●3	●2						
	Global Politics HL	Global Politics HL		●5	●3						
	Environmental Systems and Societies SL	Environmental Systems and Societies SL		●3	●2						
	Biology HL	Biology HL		●5	●3						
	Chemistry SL	Chemistry SL		●3	●2						
	Chemistry HL	Chemistry HL		●5	●3						
	Physics SL	Physics SL		●3	●2						
	Physics HL	Physics HL		●5	●3						
	Math AA SL	Math Analysis and Approaches SL		○3	▲3	▲2					
	Math AA HL	Math Analysis and Approaches HL		○3	▲5	▲3					
	Math AI SL	Math Applications and Interpretation SL		○3	▲3	▲2					
	Visual Arts SL	Visual Arts SL			●3	●2					
	Visual Arts HL	Visual Arts HL			●5	●3					
	Theory of Knowledge	Theory of Knowledge			2	1					
	IB講座Introduction	IB Introduction		8							
総合的な探究の時間	Period for Inquiry-Based Cross-Disciplinary Study					1	1	2	2	1	2
ホームルーム	Special Activities		1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	Total Credits		33	29	26	31	30	30	30	30	30

IBコース

- ・1年次 △○からそれぞれ1科目選択する。
- ・2年次および3年次にHL講座（科目名に「HL」を含む授業科目をいう。）およびSL講座（科目名に「SL」を含む授業科目をいう。）からEnglish SLまたはEnglish HLを含む科目ずつ選択する。
- ・上記科目ずつに加えて、2年次および3年次に1次のとおり選択する。この場合において、2年次に選択した授業科目は、引き続き3年次において継続して選択しなければならない。ただし、同じ言語を2つ以上同時に履修することはできない。
- から2科目、●から3科目、▲から1科目

※学校教育法施行規則第89条の2により、IBコースにおいては、

English SL（8単位）またはEnglish HL（8単位）を履修したときはコミュニケーション英語Ⅰ（8単位）を、Math AA SL（8単位）、Math AA HL（8単位）またはMath AI SL（8単位）を履修したときは数学Ⅰ（8単位）を、Theory of Knowledge（8単位）を履修したときは総合的な探究の時間（8単位）を履修したこととみなす。

IMコース

- ・3年次 ○から1科目選択する。
- ・1年次 ●から1科目選択する。

IGコース

- ・2年次 ○●▲からそれぞれ1科目選択する。
- ・3年次 △▼▽からそれぞれ1科目選択する。
- ・3年次 ☆日本語Ⅱおよび数学総合の2科目または★数学Ⅲの1科目のいずれかを選択する。

2020年度活動日程記録

敬称略

- 04月17日(金) 第1回ALネットワーク勉強会
04月23日(木) 第2回ALネットワーク勉強会
04月23日(木) 第1回APU国際学生との英語によるディスカッション企画
04月24日(金) 第2回APU国際学生との英語によるディスカッション企画
04月30日(木) 第3回ALネットワーク勉強会
05月07日(金) 第4回ALネットワーク勉強会
05月14日(金) 第5回ALネットワーク勉強会
05月21日(金) 第3回APU国際学生と英語によるディスカッション企画
05月21日(金) 第6回ALネットワーク勉強会
05月22日(金) 第4回APUディスカッション企画
05月28日(木) 第7回ALネットワーク勉強会
06月04日(木) 第8回ALネットワーク勉強会
06月22日(月)・07月6日(月)・07月13日(月)
日本教育新聞に探究の記事連載
06月28日(土) マイプロ関西勉強会 事例紹介
06月29日(月) ALネットワーク事務局会議2-2・WWL推進機構事務局会議2-2
06月29日(月)・7月6日(月)・7月13日(月) 日本教育新聞
コア探究の取組みについて連載
07月06日(月) 13時30分～ 東海大仰星10名来校 探究について
07月06日(月) ALネットワーク事務局会議2-3・WWL推進機構事務局会議2-3
07月10日(金) 第5回APU国際学生との英語によるディスカッション企画
07月14日(火) 宮崎大宮高等学校第1回ひなたALネットワーク運営協議会
07月20日(月) ALネットワーク事務局会議2-4・WWL推進機構事務局会議2-4
07月28日(火) 18時～20時 第1回コア探究運営指導委員会 オンライン
現状報告, 今年度のお願い
07月27日(月) ALネットワーク事務局会議2-5・WWL推進機構事務局会議2-5
07月29日(水) WWL事務説明会
07月30日(木) コア探究指導・助言(河井先生)
08月05日(水) アイ・シー・ネット社会課題解決型PBLにおけるデザイン力を高める研修
08月06日(木) アイ・シー・ネット社会課題解決型PBLにおけるデザイン力を高める研修
08月01日(土)～04日(火)(一社)HLAB主催Beyond Your School (BYs) (聖光学院紹介)
08月04日・05日 SRI AMAN ENVIRONMENTAL YOUTH LEADERSHIP ONLINE SUMMIT 2020 (SAEYLS 2020)
08月8日(土) 産業能率大学授業力向上セミナー@青森(現地1名(酒井・講師として)
・オンライン2名(稲垣・田路)参加。
08月11日・12日 ISIF2020ICC国際フォーラム オンライン参加(生徒7名・教員2名
参加, 生徒1名は実行委員として企画の中核メンバーの一人)
08月17日・18日・19日・20日 09月04日 ラオスオンライン海外研修
08月18日(火) 夏の探究サミット(主催:トモノカイ)講演(酒井)
08月20日(木) 秋田県立湯沢高校教員研修(探究・カリマネ)(酒井)
08月30日(月) ALネットワーク事務局会議2-6・WWL推進機構事務局会議2-6
09月04日 第6回APU国際学生との英語によるディスカッション企画
09月07日(月) ALネットワーク事務局会議2-7・WWL推進機構事務局会議2-7

09月14日(月) ALネットワーク事務局会議2-8・WWL推進機構事務局会議2-8
 09月26日(土) World Youth Meeting(WYM)
 09月27日(日) World Youth Meeting(WYM)
 10月06日(月) ALネットワーク事務局会議2-9・WWL推進機構事務局会議2-9
 10月12日(月) ALネットワーク事務局会議2-10・WWL推進機構事務局会議2-10
 10月16日(金) 大阪府立信太高校より2名来校 「コア探究について」
 10月19日(月) ALネットワーク事務局会議2-11・WWL推進機構事務局会議2-11
 10月20日(火) カナダ大使館 オンラインMTG
 10月25日(日) SRサミット連続講座1 10:00~12:00
 マサチューセッツ工科大学メディアセンター副センター長 石井教授
 WWLの連携企業(Learning in Context)開催の講演会に参加という建付
 10月26日(月) ALネットワーク事務局会議2-12・WWL推進機構事務局会議2-12
 10月27日(火) 第2回運営指導委員会 オンライン(または校内実施)
 公開授業研究会(高2の外部教材活用授業を公開可)
 10月28日(水) マイプロジェクト勉強会 探究事例紹介(酒井・稲垣)
 10月29日(木) WWLコンソーシアム構築支援事業連絡協議会オンライン開催参加
 10月29日(木) SRサミット連続講座2 20:00~21:00 タイガーモブ株式会社
 11月02日(月) ALネットワーク事務局会議2-13・WWL推進機構事務局会議2-13
 11月02日(月) SRサミット連続講座3 20:00~21:00 (株)リクルートリング事務局
 11月4日(水) 生徒の気づきと学びを最大化するプロジェクト
 探究事例紹介(酒井・稲垣)
 11月06日(金) SRサミット連続講座4 20:00~21:00 タクトピア株式会社
 11月07日(金) 第7回APUディスカッション企画
 11月09日(月) ALネットワーク事務局会議2-14・WWL推進機構事務局会議2-14
 11月10日(火) SRサミット連続講座5 20:00~21:00 NPO法人 very50
 11月11日(水) 大阪府立信太高校より4名来校 「本校の取り組みについて」
 11月13日(金) 増進堂, 四天王寺高校来校 「コア探究について」
 11月13日~15日 第3回全国高校生SRサミット FOCUS
 ・ワークショップ①: アイ・シー・ネット株式会社 芦田様
 ・ワークショップ②: グローバル教育推進プロジェクト GiFT 木村様
 11月13日~15日 Global Youth Forum 第3回全国高校生SRサミットと共同開催
 11月17日(火) 村井先生 指導助言
 11月25日(水) 河井先生 指導助言
 11月30日(月) ALネットワーク事務局会議2-15・WWL推進機構事務局会議2-15
 11月30日(月) 浜松修学舎中学高等学校とのオンラインMTG
 12月07日(月) ALネットワーク事務局会議2-16・WWL推進機構事務局会議2-16
 12月14日(月) ALネットワーク事務局会議2-17・WWL推進機構事務局会議2-17
 12月14日~16日 Model United Nations 模擬国連
 12月11日(金) マイプロジェクトアワード in 宇治
 12月20日(日) 全国高校生フォーラム オンライン開催参加
 12月28日(月) 河井先生 指導助言
 01月05日(火) ・09日(土) ・11日(月) ・16日(土) ・26日(火)
 第2回オンラインラオス研修
 01月22日(金) ・23日(土) WWL研究報告会
 01月23日(土) 第3回運営指導委員会 3年間のまとめ, 今後に向けて
 01月25日(月) ALネットワーク事務局会議2-17・WWL推進機構事務局会議2-18
 01月30日(土) 宮崎大宮高校生徒探究発表会・日向ALネットワーク会議
 02月01日(月) ALネットワーク事務局会議2-19・WWL推進機構事務局会議2-19

02月05日(金)～06日(土) フィリピンオンライン研修事前研修
02月06日(土)・07日(日) JICA 地球ひろば主催「国際理解教育／開発教育指導者研修」at JICA 市ヶ谷ビル内会議室 (JICA 地球ひろば)
02月06日(土) 第8回APUディスカッション企画
02月09日(月) AL ネットワーク事務局会議2-20・WWL 推進機構事務局会議2-20
02月13日(日)・21日(日) 第1回ケニアの障がい者施設のリアルと食 クックパッド株式会社
02月16日(月) AL ネットワーク事務局会議2-21・WWL 推進機構事務局会議2-21
02月16日(火)～19日(金) 16:30-18:30 フィリピンオンライン研修
02月20日(土) フィリピンオンライン研修事後研修
02月23日(月) AL ネットワーク事務局会議2-22・WWL 推進機構事務局会議2-22
02月25日(木) 河井先生, 溝口先生 大学生によるアセスメント報告
02月01日(月) AL ネットワーク事務局会議2-23・WWL 推進機構事務局会議2-23
03月08日(月) AL ネットワーク事務局会議2-24・WWL 推進機構事務局会議2-24
03月11日(木) 河井先生, 溝口先生 大学生によるアセスメント報告
03月15日(月) AL ネットワーク事務局会議2-25・WWL 推進機構事務局会議2-25
03月22日(月) 宮崎大宮高等学校より訪問・次年度について打ち合わせ

第2章

ALネットワーク

ALネットワークの組織化と参加団体一覧

組織概要

本学園内の組織としては、昨年同様に、法人の一貫教育（小中高）担当部署である一貫教育部にカリキュラムアドバイザー、海外交流アドバイザーを配置しました。拠点校である立命館宇治高等学校各担当との事務局会議を毎週持ち、本年度は、合計24回開催しました。この会議で、全体進行の確認、新規企画等の計画を行っています。拠点校内では、事務局長（担当副校長）を中心に、カリキュラム部会、ネットワーク部会、国際センターがそれぞれ業務を分担しています。

連携機関との間では、昨年同様にメーリングリストの活用、facebookのグループページの活用で情報を共有してきました。グループページでは、既読者の確認もでき、十分に活用されていることが確認できました。また、コロナ禍における学習会を8回、ALネットワーク推進会議（連絡協議会）を1回開催しました。開催は、研究会に合わせて行い、参加者の負担軽減につとめました。ALネットワークで行うことは、基本的にすべての事業にかかわりますが、以下のことやその準備を行なってきました



- ⑩ コロナ禍における双方向オンライン授業等の取り組み共有
- ① 総合的な探究の時間（コア探究）のカリキュラム開発と共有
- ② SDGs等の新しいカリキュラム開発・共有
- ③ 総合的な探究の時間やSDGs等に関わる海外研修の構築
- ④ 高校生国際会議の開催
- ⑤ MUN(模擬国連)の開催
- ⑥ 海外からのハイレベルな留学生を増やし、協働して学ぶ仕組み作り
- ⑦ 大学における集中講義やオンライン講義等を利用した先取り学習とAP化への挑戦
- ⑧ ビデオ会議を利用した授業での相互乗り入れや国際会議の事前会議
- ⑨ 教員研修・セミナーの開催
- ⑩ その他

本年度は、コア探究のカリキュラム開発がコロナ化で変則ではありますが完成念を迎

え、海外研修や研究会のオンライン化が行われ、アフターコロナに向けたハイブリッド型の取り組みの検討などが進展しています。

ALネットワーク参加団体

本年度は、コロナ禍により大幅な予定変更を余儀なくされ、海外連携校の充実が滞ってしまいましたが、オンラインでの交流により、台湾の学校1校高雄市私立三信高級家事商業職業学校が新たに連携校となりました。オンラインによる取り組みが進展したことより、国内外の連携機関についても、発展させることができました。本年度新規に加入いただいた連携団体は、タイガーモブ株式会社、株式会社 Inspire High、株式会社 アシックス、CURIO Japan 株式会社、米国ハワイ州観光局の5団体です。

三信高級家事商業職業学校は、知的障がいを持つ生徒のコースを持つなど、多様な生徒受け入れと職業学校として実績を持ち、全国高校生フォーラムにも参加しました。

タイガーモブ株式会社は、世界35カ国の多種多様なビジネス海外インターンシップを扱う会社で、高校生向けの海外研修の提案やPBL型研修にも強い会社です。コロナ禍においては、オンラインでのインターンシップなどを開発されてきました。

Inspire High は若者向けに、世界で活躍する様々な人の話を聞いて社会課題について考えるコンテンツを作成している会社です。アフターコロナ時代におけるオンラインプログラムの可能性を追求されています。

アシックスは、スポーツ用品の会社で有名ですが、国際展開でサプライチェーンの協働、環境問題への取り組みなど、スポーツの視点からの課題解決に取り組む会社です。

Curio Japan は、日本に留学してきた国際学生にシッティングサービスなどへの働く場を与えるとともに、日本人の若年層へのグローバル体験の基礎を作るサービスを行っている会社です。

ハワイは、体験学習やプロジェクト学習の宝庫と言われており、それらの開発や普及をするのが、ハワイ州観光局になります。

以上のような新メンバを加え、それぞれの団体がどのような場面でどのようなかわりを持っていただけるのかを今後カリキュラムマップのような形に落とし込めればと考えています。

2021年1月22日には、通算5回目のALネットワーク会議が開催され、本年度のまとめ、次年度方針、新規加入団体紹介、その他意見交換が行われました。その中で大阪関西万博 EXPO 共創プロジェクトへの参加なども推進することが確認されました。

コロナ禍であるからこそ、次項にある8回に及ぶ勉強会など、直接会えなくても一緒に何かを組み合わせるといった連帯感が強まった1年といえます。今後とも、充実した連携の取り組みを開発していきたいと思えます。

参加団体一覧

事業協働機関 (国内外の大学, 企業, 国際機関等)	①	立命館大学	仲谷 善雄
	②	立命館アジア太平洋大学	出口 治明
	③	Leyte Normal University (フィリピン)	Jude Altiveros Duarte
	④	株式会社内田洋行	大久保 昇
	⑤	アイ・シー・ネット株式会社	多田 盛弘
	⑥	一般社団法人 GiFT	辰野 まどか
	⑦	株式会社 公文教育研究会	池上秀徳
	⑧	認定 NPO 法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会	新開 純也
	⑨	タクトピア 株式会社	長井 悠
	⑩	Learning in Context (協和物産株式会社)	空田 真之
	⑪	インドネシア 西スマトラ州 Padang Panjang City	FADLY AMRAN
	⑫	株式会社 NTTドコモ ライフサポートビジネス事業部 教育・キャリア事業	山本 哲
	⑬	タイガーモブ株式会社	菊地 恵理子
	⑭	株式会社 Inspire High	杉浦 太一
	⑮	株式会社アシックス	廣田 康人
	⑯	CURIO Japan 株式会社	今西 由加
	⑰	米国ハワイ州観光局	ミツエ・ヴァーレイ
事業連携校 (国内外の高等学校等)	①	台湾 中山大学附属國光高級中学 (国立)	陳 修平
	②	タイ KASETSART UNIVERSITY LABORATORY SCHOOL (国立)	Sasitorn Jangpakorn
	③	フィリピン Philippine Science High School System (国立)	Lilia T. Habacon
	④	マレーシア Sekolah Menengah Kebangsaan (Perempuan) Sri Aman (公立)	Pn. Salwani bt Mohd Zain
	⑤	台湾 高雄市三信高級家事職業学校 (私立)	潘 福照
	⑥	メキシコ メキシコ学院メキシココース (私立)	Ada de las Mercedes Rangel Menchaca
	⑦	市川高等学校 (私立)	宮崎 章
	⑧	聖光学院高等学校 (私立)	工藤 誠一
	⑨	青翔開智高等学校 (私立)	横井 司朗
	⑩	福岡雙葉高等学校 (私立)	西山 和幸
	⑪	東明館高等学校 (私立)	黒木 忠好
	⑫	明石工業高等専門学校 (国立)	神戸 宣明
	⑬	愛媛県立三崎高等学校 (公立)	若江 亨
	⑭	宮崎県立宮崎大宮高等学校 (公立)	吉田 郷志
	⑮	宮崎県立飯野高等学校 (公立)	長谷川岳洋
	⑯	長崎県立長崎東高等学校 (公立)	鶴田 栄次
	⑰	名城大学附属高等学校 (公立)	伊藤 憲人
	⑱	立命館高等学校 (私立)	堀江 未来
	⑲	立命館慶祥高等学校 (私立)	江川 順一
	⑳	立命館守山高等学校 (私立)	寺田 佳司

AL network との勉強会を実施

2020年3月より、コロナの影響を受け各校の対応が目紛しく日々変化した。その中で、AL network 連携校や連携企業等と情報交換をし、各校の実践例を共有することでコロナ禍を乗り切ろうという動きが生まれました。毎週1時間を定例会とし、Zoomを使い毎週各校の実践共有や各社・各団体の取り組みをオンラインで共有しました。全7回にわたる勉強会には、毎回約30名が参加者し、当初はALnetworkのみの参加でしたが、日本の教育をよくしたいという理念のもと関係する教育関係者も参加が可能な会に発展しました。また、各校の実践共有だけではなく、アフターコロナ・ニューノーマルな世界ではどのような教育に変化するんだろうという、コロナ禍の経験を経てどのように日本の教育が生まれ変われるかというところまでオンラインで議論できたいことは非常に意義のある会になりました。

全体スケジュール

第1回 AL network 勉強会 4月17日

- ・新型コロナの影響による各校の状況確認
- ・各校から提案できそうな案件確認 【情報共有できる】【共有して欲しい】

第2回 AL network 勉強会 4月23日

- ・ZOOM マニュアル (立命館宇治)
- ・PBL 型授業マニュアル (立命館宇治)
- ・せんたんネット～#allwecando Project～ (三崎高校)



第3回 AL network 勉強会 4月30日

- ・Prezi 教材 (立命館高校)
- ・YOU TUBE 教材 (福岡雙葉)

第4回 AL network 勉強会 5月7日

- ・オンライン授業と留学中学生徒とのオンラインHRの取り組み (立命館宇治)
- ・G suite と Google Teach from home の活用について (福岡雙葉)

第5回 AL network 勉強会 5月14日

- ・学内での取り組みについて (聖光学院)
- ・研修などについて (アイ・シー・ネット)
- ・タクトピア
- ・タイガーモブ



第6回 AL network 勉強会 5月21日

- ・クラブ活動について (立命館宇治)
- ・ONLINE 海外研修などについて (GiFT)
- ・ビヨンド・コロナ・コンテストについて (立命館守山)

第7回 AL network 勉強会 5月28日

オンライン授業・オフライン授業のメリットデメリットは

- ・生徒目線と学校目線に分けメリット，デメリットを出し合う
- ・意見を出し合うことで，本当に必要な学校の姿が見えるのではないか

第8回 AL network 勉強会 6月4日

解決策は何があるか

- ・オンライン授業/学校運営を経験した今，今後の学校はどのような姿になるか
- ・継続できること，できないこと，発展できることなど具体的な解決策を考える

